

黒部河川事務所を支える安全衛生

黒部河川事務所工事安全対策協議会の安全活動



安全協議会 副会長
大高建設社長
大橋 聡司氏

大橋 聡司氏

一、はじめに
富山県東部を流れる黒部川は、水質日本一として知られる延長八五kmの河川です。黒部河川事務所では、この清く豊かな水と自然との調和を求めながら、地域の安全・安心を考えた事業を展開しています。黒部河川事務所工事安全対策協議会は、黒部河川事務所と、こうした事業の主旨に賛同し、工事に参加する企業で組織されました。受注者側の会員は、九月現在、三八者です。

二、協議会の活動

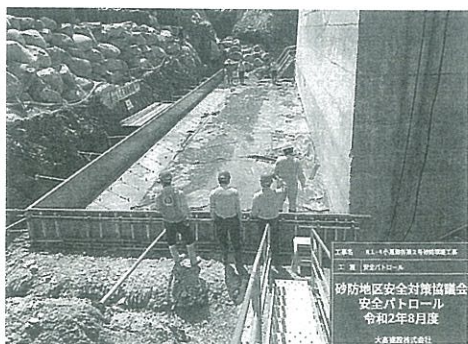
協議会の目的は、工事施工にあたり、労働災害の防止に関する総合的な計画のもとに、工事の安全施工、労働者の安全衛生、さらには第三者に対する安全を確保し、工事の円滑な遂行に寄与することです。

また、黒部河川事務所の河川・ダム・砂防・海岸の四事業ごとに、要な活動の一つです。地区協議会

ごとに開催しています。たとえば黒部川地区協議会では、原則として毎月一回開催しています。暑さ対策、第三者災害防止、重機等管理、仮設足場、コロナ禍などの観点からパトロールしてきました。指摘事項は直ちに是正し、良い取組事例などは、情報共有して安全対策のレベルアップを図っています。他の地区協議会も同様に取り組んでいます。

北陸地方整備局では、毎年九月の第四週を「建設労働災害防止週間」と定め、建設工事における労働災害の防止に向けて、安全管理や労働災害防止対策が優れた受注者を「安全管理優良受注者」として表彰しています。

協議会では、この週間に合わせて、建設労働災害防止大会を開催しています。今年度は九月二四日



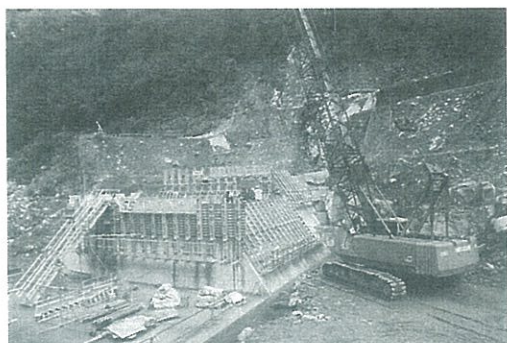
安全パトロール

に開催しました。黒部河川事務所管内は、厳しい自然環境にありますが、今年度はこれに加えて新型コロナウイルス感染症予防対策、働き方改革の推進などもあり、こうした多様な環境下で安全管理意識を再共有できたと思います。大会では、安全管理優良受注者の紹介や地区協議会の活動報告などもありました。

さらに、毎年二月に開催しているのは工事施工技術発表会です。施工技術に関する技術を発表し、さらなる安全確保、施工技術や生産性の向上をめざして取り組んでいます。

三、黒部川の防人

弊社は、黒部川流域を舞台に、砂防堰堤などの工事を手がけてきました。黒部川の砂防堰堤は、大型になると一つをつくるのに一〇年くらいを要します。というのも、流域の自然環境は厳しく、工事は五月によく現地に入り、作業ができるのは一二月までです。しかも宇奈月温泉より奥は、道路の通じていない奥山地帯です。重機など資機材は、そのままではとても運べません。黒部には黒部特有の難しさがあり、工期がかかってしまうのです。



大自然の中の堰堤工事

弊社は、重機を細かく分解し、トラック電車で輸送するなど、固有の特殊技術を磨き上げ、黒部の自然に配慮しながら、地域の安全・安心を守っています。「黒部川の防人」としての自負があります。

厳しい環境下での工事だからこそ、安全最優先は会社の最高理念です。二〇一九年一月には、全国第一号となるコンパクトコスモス（中小規模建設事業場向け労働安全衛生マネジメントシステム）を受賞することができました。

ム）の認定を受けました。一九年六月にはSDGs（持続可能な開発目標）宣言をして、SDGsを軸とした経営を実践しています。安全に関する目標は、「二〇三〇年までに当社及び関連会社において休業災害をゼロとし、人とまの安全を守る」です。さらにICTに取り組み、生産性だけでなく安全性も高めています。こうした取組みもあって、今年度の「安全管理優良受注者」表彰を受けることができました。

四、情報の発信と地域交流

黒部川流域は、多くの人が訪れる観光地です。協議会会員の工事の中には、多くの人たちの目に触れる工事も少なくありません。それぞれの企業が工事情報の発信や地域交流に工夫しながら、安全に工事を進めていると思います。砂防工事の場合、一般的には見えにくいのですが、黒部峡谷は多くの人が訪れますから、砂防工事のことをわかりやすく発信するいい場所です。

弊社の現場では、工事説明や弊社の活動と安全への取組などを紹介した看板、さらにクマ出没の注意や遭難された方を誘導する看板を設置しました。黒部峡谷の観光ポイント「人喰岩」の補修工事では、四カ国語で工事内容を説明した看板を設置しています。ネットなどで話題になっているようです。協議会や会員企業は、地域の皆様との交流に力を入れています。毎年五月に開かれるマラソン大会には、沿道の道路清掃や給水所の提供など、ボランティア活動を続けてきました。今後もこうした活動を続けながら、安全に工事を進めてまいります。



工事看板